

都内におけるノロウイルス感染症の発生状況について

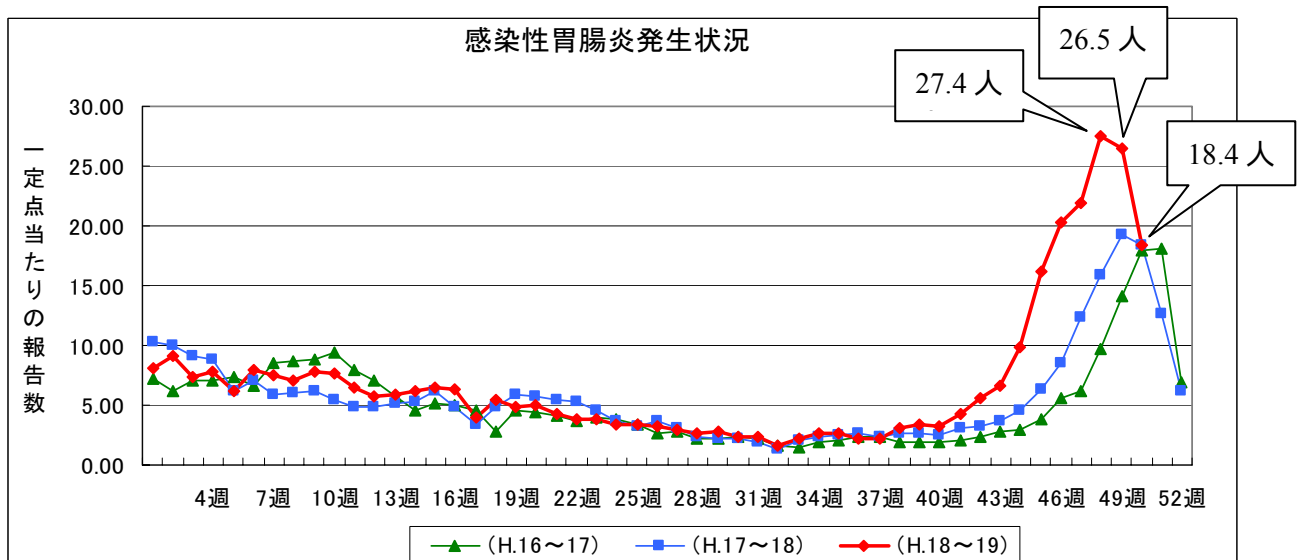
都では先般、ノロウイルスを原因とする感染性胃腸炎の流行について警報を発したところですが、

12 月 11 日以降に定点医療機関から報告された患者数が二週連続で減少しておりますが、依然として、定点あたりの患者報告数は多く、引き続き注意が必要です。

今後、インフルエンザの流行期も迎えますので、油断をせずに手洗い、うがいの励行を心がけてください。

1 東京都における感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数

(第 5 1 週 : 2006 年 12 月 24 日まで)



* データ：東京都感染症発生動向調査より <http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>

* 上記データは、都内 1 4 2 医療機関から報告された件数である。

(感染性胃腸炎は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」において、指定医療機関(定点)からの報告を要する 5 類感染症に指定されている。)

2 今シーズンのノロウイルスによる感染性胃腸炎、食中毒の特徴

今シーズンは、不適切な吐物処理が原因と考えられる感染や、調理従事者からの二次汚染による食中毒が多く見られた。

【平成 18 年 9 月 1 日 ~ 12 月 24 日までの発生数】

東京都内におけるノロウイルス感染症の集団発生報告数 (10 人以上)

件数：6 6 件 患者数：2, 7 1 4 人

(昨年同時期 件数：5 1 件 患者数：2, 1 2 8 人)

東京都内におけるノロウイルスによる食中毒発生数

件数：2 0 件 患者数：4 9 0 人

(昨年同時期 件数：1 2 件 患者数 1 7 8 人)

問い合わせ先

健康安全室感染症対策課

電話：0 3 - 5 3 2 0 - 4 4 8 2 (直通)

健康安全室食品監視課

電話：0 3 - 5 3 2 0 - 4 4 0 5 (直通)

参 考

<ノロウイルスの特徴>

感染力が強く、ごく少量であらゆる年齢層の方に感染（高齢者などは重篤になることがある）

下痢やおう吐などが主な症状。ウイルスは感染してから 1 週間程度便中に排泄され続ける。

感染経路は基本的には経口感染

- ・ ウイルスが付着した食物から感染
- ・ 感染した人の便やおう吐物を介して人から人へ感染

<予防のポイント>

手洗いの徹底を（別紙 1 参照）

- ・ トイレ使用後、調理の前、食事の前には、石けんと流水で 30 秒以上手洗い（アルコールでの消毒効果は十分ではない）

食品の取り扱いに注意を

- ・ ウイルスに汚染されている可能性のある食品は、中心温度 85 以上で 1 分間以上の加熱
- ・ 調理器具などの洗浄・消毒を徹底
- ・ 生で食べる食品（野菜、果物等）は十分に洗浄

吐物の処理は細心の注意を（別紙 2 参照）

- ・ おう吐物をふき取るときは、手袋、マスク等を使用
- ・ 室内で吐いた場合は、部屋の換気を十分に
- ・ 吐いた場所は塩素系殺菌消毒剤等で消毒